
Clone Eve

えみりあ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Clone Eve

【Nコード】

N7037M

【作者名】

えみりあ

【あらすじ】

クローンが存在する2XXX年。クローンには「人権」も与えられ、「人」として生きる道を用意された。その中で、「人」として生まれた「ナオミ」。ひょんなことから、ナオミはクローンの「母」である「イヴ」を捜すことになった。美形なパートナーたちに囲まれての「イヴ」捜しは困難を極めるが!?

「クローン」という存在。

誰も、誰も、手にしてはなかった「禁忌」。

その「禁忌」の名は、クローン。

2000年代、人型クローンは成功することがないと言われてきた。
だが、そうだろうか？

そう言われてきた時代には、秘密裏に人型クローンの開発が進められ、成功していたのかもしれない。

いや、完成していたのだろう。

そうでなければ、今のこの状態の説明がつかないのだから。

成功するはずのなかった人型クローンの存在は、いつの間にか世間一般で認められ、クローンという存在に「人権」さえも与えられるようになったのだ。

さあ、もう目を開いてもいいだろう。

目を開けてみて、一番最初に目に入っただのは何かい？

女の人だって？フッフ・・・・・・・・。

何故笑うかって？

いや、なんでもないさ・・・・。

君の目に入ったその「女の人」は、本当に「人間」であるのか？

もしかしたら、君の目の前にいる「人間」も、「人間」ではないのかもしれないよ・・・・・・・・。

「クローン」という存在。（後書き）

初めてですので、誤字脱字があるかもしれませんが、がんばります
ので見てやってください！！

1 - ? 初めまして

「で、ナオミはどうすんの？」

「・・・へ？」

いつもの学校の帰り道。

いつものように友人とともに帰り道を共にするナオミ。

「話聞いてなかったの・・・？」

「う、うん・・・」

「はあ・・・」

大げさに反応する友人の姿に、少し罪悪感を覚える。

だ、だって、少しぼーっとしてたんだから、話なんて聞けないよ！

「だから、明日の選択、どうすんの？」

「選択って、クローン学のこと？」

「そうよ。取るの？取らないの？」

あつ、そっか……。

明日はクローン学の選択の日だ……。

クローン学とは、その名の通り、クローンについて学ぶ授業のことだ。

一般的に、学校では選択制の授業となっている。

その理由とは、学校には「クローン」の生徒たちが通っている場合もあるので、彼らに対しての配慮として選択制の授業となっている。

でも、明日はミツワ大学での講義だったな……。

「面倒くさいな……。」

「そついうこと言わない！」

「アオイは、明日の出る？」

「当たり前よ！なんてったって、あのミツワ大学でやるのよ！
！！」

何でこんなに興奮したるわけ？

あそこって、広くて綺麗な良い学校だったけど、そこまですごく秀でてるようなこと、あったっけ？

「あそこって、美形集団の集まりなのよ！！しかも、超がつくほどのね！！」

「そういうことが・・・」

溜息をつく。

やっぱりそういうことだったか・・・。
なんか裏があると思っていたけど、美形見たさに選択取るのか・・・。

「だから、あんたも明日の選択取りなさいよ。一緒にイケメン探しましょ」

「わかった・・・。明日、絶対に私とバディ組んでよね！間違ってもイケメンと絶対組まないでよ！！」

「わかった、わかった。この間のことは悪かったって」

この間のことは、実験でバディを組む際、アオイは中々の美青年に誘われて、あっさりとナオミを捨てたのだった。

あの時、まったく知らない科学オタクっぽいぽっちゃりと組まされたんだから！！

ほんっと最悪だった・・・。

あいつ、いろいろやってることに対してイチャモンつけてくるわ、ウンチク語ってくるわで、何度殴りたくなったことが……！！！！！！

「だから、悪かったって……！だから、明日はあんたと一緒にバディ組むからさ、ね？」

手を顔の前で合わせて、「ね？」と上目づかいで迫ってくるアオイに、そこから先は何も言えなかった。

「あつ、あの人見たことある気がする」

ナオミが指差す先には、大画面に映るライブ映像だった。人が多く通る交差点の真ん中のビルに、その大画面はぴったりと配置されているのだった。

「そりゃそうよ。だって、あの人私たちの親世代よりも前に活躍したミュージシャンの『クローン』だもの」

さも当たり前のように答えた答えの中には、「クローン」という言葉が。

「あの人、何十年も前に亡くなってるよね？あのクローン、まだ2

0代前半ぐらいじゃない？」

「亡くなって随分経ってから、遺言に従ってクローンにしたんだって。ほんっと今更だよね」

亡くなった人は戻ってくるはずがないのに……。

今更クローンという存在を作ったところで、あのクローンが元の形になんて、なるはずがないのに……。バカみたい……。

人混みの中で立ち止まっていることは難しく、アオイに手を取られて画面の前を立ち去った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7037m/>

Clone Eve

2010年10月8日21時19分発行